



INGING MOTORSPORT.



INGING MOTORSPORT OFFICIAL WEBSITE OF PAPER [<http://www.inging.co.jp>]

INGING NEWS PAPER 2015 VOL.04

2台で上位 フィニッシュ

石浦リーダーズレッドをキープ!!

TAKE
FREE
無料



Race Report

Round.3 FUJI SPEEDWAY 7/19 Final

決勝 2015年7月19日 富士スピードウェイ

SUPER FORMULA TWIN RING MOTEGI 8/22-8/23

Support by cyber net

INGING NEWS PAPER VOL.04 [インギング ニュースペーパー]

発行：株式会社サイバーネット 西日本事業部
〒596-0011 大阪府大阪市浪速区難波中1-1-2-5 難波室町ビル5F



Race Report 決勝 2015年7月19日 富士スピードウェイ
Round.3 FUJI SPEEDWAY 7/19 Final
天候:曇り | コース状況:ドライ 決勝 [55 Laps : 250.965 km]

歓喜の優勝から2ヶ月

国内随一のハイスピードバトルを堪能できる富士スピードウェイ

1kmを超える超ロングストレートで繰り広げられる抜きつ抜かれつ争い

前日の予選では思わぬ結果となったP.MU / CERUMO・INGING。しかし決勝ではクルマの速さとドライバーの勝負強さを見せつけ、石浦が3位表彰台、国本も4位入賞と揃って上位フィニッシュを果たした。相変わらず意気込みの、時折暴走らしい目撃が差し込んだ決勝。前日のコメントではドライセテンプに自信をのせていた石浦だが、フル一巡行で後手と、思っていたほどのペースを見せることができます。だが、この原因となったトラブルをチームがつきとめ、石浦は岡山でつかんだマシンの手こたえを取り戻して決勝に臨んだ。

55周で争われる決勝レースは、午後2時4分にスタート。P.MU / CERUMO・INGINGの2台は、ともにロケットスタートを見せる。石浦は3つ順位を上げて7番手、国本は9つ上げる会心のスタートで4番手にまでポジションを上げていた。このオープニングラップで他車に接触アグシデントがあったため、セーフティカーが導入され、6周目にリスタート。4番手を走る国本と、リスタートでアンドロ・ロッテラーの先行を許し8番手を走る石浦は、ともにハイペースで前のマシンを追いかけた。通常のレースならば逆走ってタイミングでル・テレーンのピット作業に入るところだが、セーフティカーが入ったこと、各チームの戦略の違いから、リスタート後から各車がそれぞれのタイミングでピット作業に戻りはじめた。コース上の国本と石浦は、目の前のマシンだけでなく、ピット戦略でターゲットになるドライバーたちも想定しながら、全力のアツクを駆けていた。他車が数々とピットに突っ込んで中、スプリントを続ける石浦は、28周目にトップに浮上。そのまま、自分がピット作業をすませた時点で前後の位置にいると想定したロッテラーとのギャップを広げるべく猛アツクを重ねた。41周を終えたところでピットに戻った石浦。チームもミスのない動きでタイヤ交換と給油をすませると、ライバルに想定していたロッテラーの前、3番手を石浦をコースに送り出すことに成功した。その後、フレッシュタイヤの石浦は51周目に自己ベストタイムを更新するなどハイペースで周回を重ね、3位でフィニッシュ。2戦連続で表彰台を獲得するとともに、ポイントランキング首位を堅持した。

ドライバーランキング DRIVER STANDINGS

今シーズン3ラウンドを終えて石浦宏明がランキングトップ!!

鈴鹿サーキットで行われた開幕戦で5位入賞7年ぶりの岡山国際サーキットでシリーズ戦での初優勝そして前回富士スピードウェイ3位表彰台!!
チームランキングも現在2位と今シーズン絶対的なだけに今後の展開に乞うご期待!!



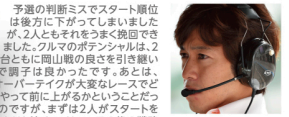
いっぽうの国本は24周を終えたところでピットイン、タイヤ交換をすませると、ピットインと同じく小林可夢偉の後ろで戦利に復帰した。国本はみるみるうちに小林に迫るが、F1を経験する小林のブロックは、簡単には攻めできない。29周目の1コーナ―へ、アウト側から並びかけてオーバーテイクを試みるが、タイヤをふさがれて見逃す。1周の遅れをとって、30周目にも同じように1コーナ―でアウト側から勝負を仕掛けるも、このバトルも小林のブロックに阻まれてしまう。しかし、2度の国本の鬼気迫る猛アツクは確実に小林に揺さぶりをかけていた。最終コーナ―をイン側から並びかけるように入ると、31周目の1コーナ―でイン側から小林の攻めに成功し5番手にポジションアップ。その勢いのまま、4番手のロッテラーにも近づいて行った。百戦錬磨のアンダレスも意気込みはかわせなかったが、レースも終盤に入った44周目、小林を抜き去った1コーナ―で同じようにイン側からオーバーテイク、4位に上がり今季最上位でチェッカーフラッグを受けた。



YUJI TACHIKAWA 11

立川 祐路

◎ Team director



予選の判断ミスでスタート順位は後方に下がってしまいましたが、2人ともそれをうまく挽回できました。クルマがテンションは、2台とも岡山戦の良さを引き継いで調子は良かったです。あとは、オーバーテイクが大変なレースでどうやって前に上がるかということだったのですが、まずは2人がスタートをしっかり決めてくれて、その後の戦略も上手くなりました。今回のような、予選が上手いかなかったレースでも2台揃って上位フィニッシュできるのは、チーム力が上がってきた証拠だと思います。チーム皆の頑張りのおかげで、良かったと感じています。予選位置を考えると最良の結果だと思います。シリーズポイント的にも石浦がトップを守りました。チャンピオンシップを奪ってほしい結果だと思います。1回勝ったというだけでなく、チャンピオンを奪える位置で戦えているので、これから先ももっとチーム一丸となって、チャンピオンを視野に入れた戦いを目標としていければと思います。

HIROAKI ISHIURA 38

石浦 宏明

◎ 予選10位 ◎ 決勝3位



昨日から、マシンに対し若干の違和感を感じていたので、今朝の状態でトラブルが見つかり、決勝前にしっかりと感度を改善することができました。ペースには自信を持っていたので、まずはスタートを決めてポジションを上げられれば、戦略の選択肢が広がるかと考えていたのですが、ポジションを上げることはできませんでした。ただ、優勝は1コーナ―を立ち上がった段階ではもった前のポジションにいたのですが、2台のマシンに挟まれる形でぶつかりそうになったので、少し引く形で避けたところ、3台ぐらい前に出られてしまいました。リスタートでも、オーバーテイクを使いあってバトルしていたロッテラー選手に抜かれてしまい、そこまでは本当に運が悪いと、どう打開しようかと考えていました。実は無難にトラブルを抱えていて、スムーズにはピットとコミュニケーションが取れない状態だったので、いいタイミングでピット作業に入ることができて、予定通りロッテラー選手の前でコースに戻ることができました。レース前はタイムのタイミングなど、なかなか作戦が決まらなかったのですが、最終的にはチームやエンジニアの判断が良く、予選での悪い結果を挽回することができました。

YUJI KUNIMOTO 39

国本 雄資

◎ 予選13位 ◎ 決勝4位



スタートが上手く決まったことと、その後の1コーナ―で遅くスペースを見つけてことができ、4番手まで上がることもできました。そこからのペースも、とても良かったです。小林選手に詰まって本来のペースで走れない周回が長かったのでこの順位だったので、もっと早い段階でオーバーテイクできなければ表彰台に上がったかもしれないと考え、と悔しい気持ちもありますが、クルマのペースも良かったし、僕自身もしっかりとベストを尽くして走れたので、週末を通して考えながらゴールできたことは良かったと思います。(小林選手とのバトルについて)自分の方が絶対にペースが速いと分かっていたし、1コーナ―のブレーキングについても僕の方が分があると1回目のバトルで分かりました。2回目のバトルで、小林選手がコントロールを乱したので、「これはいける」と思って続けてアツクしました。開幕戦、第2戦と全然レースができていなかったのですが、今日は勝負強いところを見せてくれたので、クルマに関しては、予選日のタイヤチョイス以外は良かったです。いい週末になったと思います。